



類字及不和字集 三

津田文庫

文庫 1

1627

3



つだ文庫



010190607483

新字の形如秋集卷之三

大代集後書

与行

流 澤川 渡野

山城 東久世郡 西し訓郡

古今恋三

海を川流の津水雨ををるるをいふは流りて其貫之

同四

流川のうらむと人をみるを流て少くは人の物を後人不知

同五

山城の流のあまもつとふふぬ人程に我をともるは同

後撰恋六

あま事と流よりそふみの杜つじと流の流りて流同

同返二

流の杜を流けは流のあまもつとふふぬ人程に我をともるは同

拾遺夏

又流ぬとゆく成りし流川の高瀬のあまもつとふふぬ人程に我をともるは同

同

流のあまもつとふふぬ人程に我をともるは同

同

流のあまもつとふふぬ人程に我をともるは同

拾遺冬

流のあまもつとふふぬ人程に我をともるは同

同恋三

流のあまもつとふふぬ人程に我をともるは同

後拾遺夏

流のあまもつとふふぬ人程に我をともるは同

同恋二

流のあまもつとふふぬ人程に我をともるは同

同誹諧

流のあまもつとふふぬ人程に我をともるは同

金葉夏

あめ草うも形にまじりぬる根うり人の引あまらん 春宮文麈

同恋三

首痛ゆとわぬぬあをを引違る世はの馬くれ敷哉 相模

十載衰傷

玉ぬらうあめ草をささるるをせりまん物とやい返 江信臣

同恋四

山城のみのせれ里の妹とまでまなむと舟よりせん 從三位頼政

同雜下

よのふとに夜初れも事と知れぬものさうのあまれら 和泉式部

新古今夏

海も花もよれ水邊をれを度まで月の影を照せ 前中納言房

同冬

物らじゆこの海葉折あてよの海をいねとさるる 左近将衛

同別

都をせねととやうと神しよと川者いふと福元 匡房

同恋三

山城の流るるをせりまて神ぬれぬとせうとて南 重三

新勅撰上

然るに神すすまの川もとてまてをまらぬ形 好忠

新後撰雜上

らぬらとてまの川もすむとてまらぬ形 同

同雜中

あまらるるをせりまの事とやうとてまらぬの比 截意江叶

玉葉冬

物らす水の上のうと煙うと晴やぬと川の比 後景極

同雜二

らを揮とてま守るれ水はゆとてまらぬの比 友承冬隆

同雜夏

水邊を流るるをせりまの事とやうとてまらぬの比 正三位隆教

凡雅雜上

水邊を流るるをせりまの事とやうとてまらぬの比 正三位隆教

同中

水邊を流るるをせりまの事とやうとてまらぬの比 前中納言相

同尺教

皆人をせりまの事とやうとてまらぬの比 正三位隆教

新十載夏

又月夜をせりまの事とやうとてまらぬの比 友原隆信

同賀

又月夜をせりまの事とやうとてまらぬの比 枇杷皇太后

新拾遺松下

又月夜をせりまの事とやうとてまらぬの比 馬氏

新後拾遺夏

又月夜をせりまの事とやうとてまらぬの比 前關白大國

同雜夏

又月夜をせりまの事とやうとてまらぬの比 源光正

新後古今春

又月夜をせりまの事とやうとてまらぬの比 成恩寺司關

同夏

又月夜をせりまの事とやうとてまらぬの比 白前左大臣

同恋二

又月夜をせりまの事とやうとてまらぬの比 左近將衛

拾遺神樂

又月夜をせりまの事とやうとてまらぬの比 法下村基

玉葉神祇

又月夜をせりまの事とやうとてまらぬの比 兼盛

拾遺神樂

又月夜をせりまの事とやうとてまらぬの比 兼盛

玉葉神祇

又月夜をせりまの事とやうとてまらぬの比 兼盛

同雜二

同返し

同雜三

拾遺春

同

同

同

同冬

拾遺冬

同

同

同物名

同雜下

同

同雜春

後拾遺春

同

同

金葉春

同

同

同

詞花春

同

同秋

同冬

同恋上

十載春上

同

数るぬめりもらちて若野山をた歌きせとるゆかり 後人不記

若野山越ん事しうかたうめ恨じるまにの歌のまむ 同

山にふゆ積らんこ若野の山にいらるとうらなふ若 源昇朝臣

去る山にふゆ計やこ若野山を捨て去らふゆえん 忠岑

若野山をたてて若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 源重之

我宿の梅ふるふゆてとて若野山を捨て去らふ若 僕人不記

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 務中

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 後人不記

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 同

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 源景明

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 能宣

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 兼盛

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 元辨

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 同

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 人丸

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 源景明

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 元辨

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 能宣

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 紫式部

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 若原清家

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 若原清家

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 修理亮

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 若原忠隆

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 源定信

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 平兼盛

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 大徳院

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 曾根好忠

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 若原義忠

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 若原義忠

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 待賢門院

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 若原義忠

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 若原義忠

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 若原義忠

若野山を捨て去らふ若野山を捨て去らふ若野山を捨てるん 若原義忠

同

同

同春下

同

同雜上

同中

新古今春上

同

同

同

同

同

同下

同

同

同

同秋上

同

新古今冬

同

同恋

同雜上

同

同雜中

同

同

新勅撰春

同

同

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 左京為業

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 後成

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 若原兼道

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 後惠法師

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 左京兼道

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 中納言經忠

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 左原定家

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 攝政政大臣

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 輔仁親王

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 西行

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 同

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 左京家衡

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 正三位守能

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 後成

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 源具親

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 攝政政大臣

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 家隆

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 從三位賴政

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 雅經

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 後惠

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 陽原王

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 後今不知

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 後成

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 法華堂清

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 慈田

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 西行

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 左京家衡

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 左京兼道

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 權中納言長

若野山花の如く成りてくわゆる花冬のさく云 後京極

新勅撰上

新勅撰下

新勅撰

寂蓮

同

五由ふ吉野の橋よきてさきさきまはるる春の山を

園白左大臣

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

後京極

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

俊直

同春下

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

家隆

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

橋俊朝

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

友原

同夏

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

俊成

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

前園白

同旅

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

開白左大臣

同恋

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

弘暉

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

持統天皇

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

後京極

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

権納言

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

慈山

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

人磨

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

道前大臣

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

俊成

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

壬生忠見

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

後人不知

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

西行

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

俊成

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

定家

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

後鳥羽院

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

太上天皇

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

俊成

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

前納言

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

若原

同

まはるる橋よきてさきさきまはるる春の山を

若原

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

白雲のまじりて... 権大納言 権

み... 平貞時 權

花とみ... 前大納言 權

つら... 野宮大納言 權

う... 前大納言 權

さ... 津守国史 權

吉... 後鳥羽院 權

無... 内大臣 權

吉... 法中在馬 權

つ... 後三条院 權

天... 秋内親王 權

吉... 西行法師 權

つ... 津守国史 權

吉... 源重春 權

わ... 津守国史 權

吉... 源重春 權

わ... 源重春 權

吉... 源重春 權

同

此若野乃山の五のち後しうり常るり

法華經註

同

若野川流てうり年るる

前中納言

同雜春

若野川流てうり年るる

中務卿

同

若野川流てうり年るる

源頼貞

同

若野川流てうり年るる

法眼頼英

同雜上

若野川流てうり年るる

為久

同

若野川流てうり年るる

津守國量

同

若野川流てうり年るる

津守量支

同賀

若野川流てうり年るる

前中納言

同

若野川流てうり年るる

右原隆信

新編古今春

若野川流てうり年るる

武門院

同

若野川流てうり年るる

後田融院

同

若野川流てうり年るる

後同言

同

若野川流てうり年るる

三入道

同

若野川流てうり年るる

中務卿

同

若野川流てうり年るる

源義時

同夏

若野川流てうり年るる

源義時

同

若野川流てうり年るる

後鳥羽院

同

若野川流てうり年るる

後鳥羽院

同

若野川流てうり年るる

後鳥羽院

同

若野川流てうり年るる

上寺門院

同

若野川流てうり年るる

前大僧正

同

若野川流てうり年るる

成恩寺

同

若野川流てうり年るる

後小松院

同

若野川流てうり年るる

神祇伯

同

若野川流てうり年るる

前春議

同

若野川流てうり年るる

僧正宋縁

同

若野川流てうり年るる

源義朝

同

若野川流てうり年るる

家隆

後後撰恋三 くらとまろよらの誓合ふまゝさるる波小袖わくせや 後法性寺入
前開貞政書

後古今冬 橋ちやうこの更折ふまゝ千鳥をさるる沖小きる月を 大華前内大臣

後拾遺春上 よこの浦の露曉の夕後さるる松のむら 藤原隆信

同冬 沙月よこの浦松をさるる松のむら 俊惠法師

同恋三 子てふおれぬ波のうねと結と死面よこの浦風 雅經

凡雅雜上 よこの海霧わくまろのゆふ沖くおのれまゝ 権中納言旅
惠慶法師

新千載春上 くらとまろよらの誓合ふまゝ浦風ゆく 大納言通具

後拾遺旅 浦の松をさるる橋の波柳さるるのむら 和泉式部

同恋二 よこの浦の誓のまゝさるる地獄も我やと 前僧正教
後京極

同雜中 くらこの浦入海さるるわくせや 隆信法師

新後拾遺冬 くらこの浦の夕まゝ今とさるる沖つ汐を 隆信法師

同冬 舟さるるよこの浦のゆふおれぬと 隆信法師

新後古今冬 千鳥鳴よこのうらまゝと 隆信法師

新玉津嶋 新玉津嶋は浦松合ふまゝ 山城

新後古今冬 今おふ橋もなれぬ 権中納言
後藤光國
空前大臣

同 蜘蛛のくもれとさるる 権中納言
後藤光國
空前大臣

同 なのむら我おれぬ 権中納言
後藤光國
空前大臣

同 竹田原 同

後古今冬 今おふとさるる 後人不知

玉葉恋 打後と竹田の 攻上即ち
後皇内親

後千載賀 契とん我方の 後皇内親

新古今春 約とて水さるる 俊成

後古今春 玉川入峯の 俊成

玉葉恋 くらとさるる 俊成

凡雅春下 若とれぬ 同

同 山崎のたのふ家より玉川の源にてとむるはれは 後鳥羽院

同 雑上 山崎のたのふ家よりとむるはれはとむるはれは 前政大臣女

新千載夏 山崎のたのふ家よりとむるはれはとむるはれは 祝部行親

新拾遺春下 新玉川を引ての玉河を流し八重とやむるはれは 後成

同 雑上 汲て玉河を引ての玉河を流し八重とやむるはれは 前大納言平

新後拾遺春 山崎のたのふ家よりとむるはれはとむるはれは 因白大臣

新後拾遺春下 玉川乃流すはれは山崎と我よりとむるはれは 入道贈后親

玉井 同 相樂郡 玉川乃流すはれは山崎と我よりとむるはれは 玉川乃流すはれは

新後撰尺教 洗初しりとのたのふ家よりとむるはれはとむるはれは 法下安聰

凡雅雑中 我よりとむるはれはとむるはれはとむるはれは 藤原道信

新後拾遺秋 雑 たのふ家よりとむるはれはとむるはれはとむるはれは 式子内親王

新古今亦三 偏を引てはれはとむるはれはとむるはれはとむるはれは 平貞丈

同 神祇 玉川乃流すはれはとむるはれはとむるはれはとむるはれは 慈田

玉葉冬 玉川乃流すはれはとむるはれはとむるはれはとむるはれは 後成

新勅撰尺教 玉川乃流すはれはとむるはれはとむるはれはとむるはれは 高井上人

玉葉雑三 玉川乃流すはれはとむるはれはとむるはれはとむるはれは 樺大納言

新拾遺雑三 玉川乃流すはれはとむるはれはとむるはれはとむるはれは 高市黒人

古今春下 玉川乃流すはれはとむるはれはとむるはれはとむるはれは 若原のちり

同 秋上 玉川乃流すはれはとむるはれはとむるはれはとむるはれは 法人不知

古今秋下 玉川乃流すはれはとむるはれはとむるはれはとむるはれは 業平のちり

又拾遺冬 玉川乃流すはれはとむるはれはとむるはれはとむるはれは 少や上

同 玉川乃流すはれはとむるはれはとむるはれはとむるはれは 是則

同 玉川乃流すはれはとむるはれはとむるはれはとむるはれは 貴之

同 玉川乃流すはれはとむるはれはとむるはれはとむるはれは 後ノ不知

同 玉川乃流すはれはとむるはれはとむるはれはとむるはれは 玉川のちり

同 玉川乃流すはれはとむるはれはとむるはれはとむるはれは 後人不知

同秋上

同

同下

同

新古今秋下

同冬

同旅

同恋二

同雜中

新勅撰秋下

同

同

同尺教

同雜一

同秋上

後古今秋下

同

同冬

同旅

後拾遺秋下

同

同

同

後拾遺秋下

同冬

同尺教

新勅撰恋二

玉葉春上

同秋上

竹若の秋風の北里あるて秋の心なるを流るる

秋風よよよあじの秋の心なるを流るる

法法寺入道
前園白入道

通毛

後惠法中

後成

宮内

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

玉葉秋下

存心の情あるをいふは玉葉の葉の如く人

赤人

同

時を待たぬは花を待たぬの如くも

権僧正雅

同冬

左田川もあけぬもけははらぬおの

法皇の御

同

けしうと冬ノ氣をふく田川を

修成

同恋一

おとほし可哉と云はるる田川

侯人不知

同難三

左田川ありしのもさるる

阿上人

後千載春

今よりさるる形は花の侍ふ

贈住持子

同夏

くさるる田川山の郭さるる

光明寺住持

同

左田河川の流るるをいふ

入道前住持

同冬

左田河川の水をさるる

贈住持子

同

唐錦と云ふ水の如き

権中納言

同秋下

左田河川の上ふるる

津守国冬

同難上

左田川流るるをいふ

家隆

後後拾遺春

くさるる田川の流るる

権中納言

同秋下

祇園の山をいふ

後鳥羽院

同

風のたつ田のりみ

刑部卿兼

同冬

唐錦と云ふ水の如き

右大臣兼

同

左田川本流の流るる

右大臣兼

凡推春下

左田川をいふ

中納言兼

同夏

左田川ありしをいふ

院寺寺

新千載春

祇園の山をいふ

前納言

同秋下

左田川をいふ

巴院前住持

同

左田川をいふ

後醍醐院

同

左田川をいふ

三徳院前住持

同

左田川をいふ

前納言

同

左田川をいふ

大納言

同

左田川をいふ

前納言

同

左田川をいふ

源清兼

同

左田川をいふ

式土内親王

新古今集三

淳和天皇

同 恋三

同 雜上

後拾遺集

同 秋上

同 秋下

新拾遺集

同 旅

同 哀傷

同 雜中

新後撰集

同

同 雜冬

同 旅

同 夏

同 秋上

同 秋下

同 冬

同 雜上

新古今集

同

同

新勅撰秋上

同 雜一

後後撰春

同 秋中

後古今春下

同 雜中

左田川のほとりてとらふはうらふのさかたのさかた

左田山ゆふ村鳥のゆふくを床のさかたのつやを

左田山時氣のさかたのさかたをさかたのさかた

左田山木綿のさかたのさかたをさかたのさかた

格のさかたのさかたのさかたのさかたのさかた

おろ八入のさかたのさかたのさかたのさかた

左田山さかたのさかたのさかたのさかた

さかたのさかたのさかたのさかたのさかた

世中おろひのさかたのさかたのさかたのさかた

夕さかたのさかたのさかたのさかたのさかた

左田川おろひのさかたのさかたのさかたのさかた

おろひのさかたのさかたのさかたのさかたのさかた

左田山おろひのさかたのさかたのさかたのさかた

おろひのさかたのさかたのさかたのさかたのさかた

新古今集三

三十一

尾上 宮野

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

尾上 宮野

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

尾上 宮野

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

尾上 宮野

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

尾上 宮野

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

尾上 宮野

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

尾上 宮野

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

尾上 宮野

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

尾上 宮野

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

尾上 宮野

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

尾上 宮野

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

尾上 宮野

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

大和 藤上郡

後拾遺冬 高峯のむらさきふりてとてわよしと人にとほりて 遊在行家

新後撰秋 中まらぬも秋風吹て高峯のむらさきふりてとてわよしと人にとほりて 同

同冬 ありてとてく年少くぬき高峯のむらさきふりてとてわよしと人にとほりて 同

玉葉秋上 高峯のむらさきふりてとてわよしと人にとほりて 家持

同 高峯のむらさきふりてとてわよしと人にとほりて 後苑院

同 高峯のむらさきふりてとてわよしと人にとほりて 淡人不知

同 高峯のむらさきふりてとてわよしと人にとほりて 笠金村

後千載上秋 高峯のむらさきふりてとてわよしと人にとほりて 知者親王

同 高峯のむらさきふりてとてわよしと人にとほりて 法皇親王

同 高峯のむらさきふりてとてわよしと人にとほりて 僧正行意

同秋下 高峯のむらさきふりてとてわよしと人にとほりて 光明寺

同 高峯のむらさきふりてとてわよしと人にとほりて 前持

又後後撰下 高峯のむらさきふりてとてわよしと人にとほりて 津守

同冬 高峯のむらさきふりてとてわよしと人にとほりて 氏親

後後撰上秋 高峯のむらさきふりてとてわよしと人にとほりて 氏親

同秋下 高峯のむらさきふりてとてわよしと人にとほりて 氏親

同 高峯のむらさきふりてとてわよしと人にとほりて 赤八

新撰冬 高峯のむらさきふりてとてわよしと人にとほりて 後茶

同秋下 高峯のむらさきふりてとてわよしと人にとほりて 真照

新撰冬秋 高峯のむらさきふりてとてわよしと人にとほりて 後茶

同 高峯のむらさきふりてとてわよしと人にとほりて 後茶

後拾遺文 ありとありとを知らるる事にもや 弁の玉川の里 往住家隆

玉葉夏 弁の玉川の里 往住家隆

後拾遺文 夏衣の袖と袖とをさす玉川の里 往住家隆

風雅夏 時を知らるる玉川の里 往住家隆

新千載夏 玉川の里の夏衣の袖と袖とをさす玉川の里 往住家隆

同 夕月夜ひらけたりて玉川の里 往住家隆

新古今全歌 白波の音りして玉川の里 往住家隆

玉江 詠

後拾遺文 鳴上郡 越前同色有

拾遺雜和 玉江の玉江の里 往住家隆

金葉夏 玉江の玉江の里 往住家隆

同 玉江の玉江の里 往住家隆

千載春上 玉江の玉江の里 往住家隆

判勅撰文 玉江の玉江の里 往住家隆

同雜一 玉江の玉江の里 往住家隆

後拾遺文 玉江の玉江の里 往住家隆

同冬 玉江の玉江の里 往住家隆

後拾遺秋下 玉江の玉江の里 往住家隆

玉葉旅 玉江の玉江の里 往住家隆

後千載春下 玉江の玉江の里 往住家隆

同旅 玉江の玉江の里 往住家隆

同志一 玉江の玉江の里 往住家隆

新千載春 玉江の玉江の里 往住家隆

新後拾遺秋 玉江の玉江の里 往住家隆

新拾遺春上 玉江の玉江の里 往住家隆

玉江 河淀

河内 茨田郡

後拾遺夏 玉江の玉江の里 往住家隆

同 玉江の玉江の里 往住家隆

同志一 玉江の玉江の里 往住家隆

同 玉江の玉江の里 往住家隆

棟木九

春宮美公

源道時

右近清時

金道山

右近行能

左京交

入道

中原

淡人

津守

貫之

權律師

光明寺

道前

兼

源

藤原

源

源

源

同雜上

つらきもの涙の涙も枯れぬと初あはれはさかぬん 晴命法師
新拾遺雜上 とも枯れぬの涙今もみ舟祇もくみきりたるきりん 津守國冬
新古今戀 妻の涙の涙今も枯れぬと初あはれはさかぬん 若菜雅長朝

竹河

河内

拾遺雜秋 ねえふの流れく時を竹川の園のみりもあはれん 躬恒
この安里寺 同

玉乘雜三 五國山ありのきとこの安里のきあもあはれんよ阿上人

玉横野

和泉

新拾遺雜上 終夜あひのひるよとみくもあはれん 野の秋の月を 淡人不知

この師一濱

同 大島郡

古今雜上 又拾遺雜恋 沖つ波をまの涙に涙松のぬふもまを涙結やうつれ 貫之
金乘恋下 ともあはれぬ師の涙あはれぬ波の瀬も袖のぬふもまを涙結やうつれ 一宮紀伊

續古今冬 娘は小もあはれぬ沖つ波を師の涙ゆらとるも涙也 源雅言抄

同恋二 おの涙のこの師の涙のぬふもまを涙結やうつれ 我妻も定家

續拾遺雜春 泣く色のこの師の涙あはれぬもまを涙結やうつれ 春の田舎も 宇瀬清女

風雅夏 危きまのまの涙あはれぬもまを涙結やうつれ 前田在左

同雜中 云々のまの涙あはれぬもまを涙結やうつれ 金言 湖子 永祐

この濱

同 嶋一郡

續後撰賀 云々のまの涙あはれぬもまを涙結やうつれ 太上天皇

この津下宮

同 西生郡

金葉秋 ちのまのまの涙あはれぬもまを涙結やうつれ 赤藤所於

新勅撰春 妻の涙はまの涙あはれぬもまを涙結やうつれ 常延法師

同夏 妻の涙はまの涙あはれぬもまを涙結やうつれ 権満言長

玉葉冬 ちのまのまの涙あはれぬもまを涙結やうつれ 右系隆長

同雜五 若のまのまの涙あはれぬもまを涙結やうつれ 慈鎮

田養鴨

同 西生郡

古今雜上 那波浮みあはれぬもまを涙結やうつれ 淡公知

同又拾遺 妻の涙はまの涙あはれぬもまを涙結やうつれ 貫之

續後撰旅 妻の涙はまの涙あはれぬもまを涙結やうつれ 前太政大臣

新後撰賀 云々のまの涙あはれぬもまを涙結やうつれ 津守徑因

田兼清の菊波の歌

玉葉秋下 たるのとも今来しちうり花のさふふめまんと思へ淡々不知
月雅雜上 かきてをさうくふ成ぬあまきたらの清波なりぬの 高階重茂
新子載上 粉波浮るを写めるこれあまのさみの清の波りなる後 大納言即頼
同 白めの清の波をまをさうてこれかみの清の波りなる後 山内道隆
同賀 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言
新後拾遺 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

玉出水 天王寺

伊勢 西生郡

新後拾遺 敬 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

竹部

伊勢

新勅撰 吳竹の竹部とさうてあまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

高野山 奉

遠江

新勅撰 秋下 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

後拾遺 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

同 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

新拾遺 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

新後拾遺 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

新後古今 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

田兼清

駿河 越中同名者

古今恋 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

後撰恋 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

拾遺雜春 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

新古今 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

同雜中 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

後古今別 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

同恋四 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

後拾遺春 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

同冬 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

同秋 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

後年載旅 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

後年載旅 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

後年載旅 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

後年載旅 ありあたまの清の波をさふ平年とさうてたつてあまの清の波りなる後 大納言

凡雅夏

田子の浦の波は遠くを渡る舟の煙也有清助朝

新撰恋三

田子の浦の波は遠くを渡る舟の煙也前納言

新撰送文

舟の煙は遠くを渡る舟の煙也法守定四

同雅中

舟の煙は遠くを渡る舟の煙也法守定馬

同

舟の煙は遠くを渡る舟の煙也法守定馬

新撰恋四

舟の煙は遠くを渡る舟の煙也静法親王

同雅上

舟の煙は遠くを渡る舟の煙也祝部成茂

舟下

相摸

後拾遺歌

足柄の山は遠くを渡る舟の煙也平長時

同雅春下

舟の煙は遠くを渡る舟の煙也前納言

同旅

舟の煙は遠くを渡る舟の煙也友原頼成

玉川

武蔵

拾遺恋四

玉川の波は遠くを渡る舟の煙也伏見不知

ちのち

同 後撰集巻之前書當国云

後撰秋下

秋の波は遠くを渡る舟の煙也友原忠房

後拾遺上

舟の煙は遠くを渡る舟の煙也新院内親

常陸

後恋一

舟の煙は遠くを渡る舟の煙也友原頼成

雁鳥尾山

内江

新撰恋

舟の煙は遠くを渡る舟の煙也尾房

日向山

同 志賀郡

玉葉旅

舟の煙は遠くを渡る舟の煙也坂上御女

玉渚山

同 内江 蒲生郡

拾遺賀

舟の煙は遠くを渡る舟の煙也法守定馬

玉野原

同 勅撰各甲抄藻草當国云

新撰賀

舟の煙は遠くを渡る舟の煙也正三位家衡

玉井

同

後拾遺賀

舟の煙は遠くを渡る舟の煙也民部卿經光

玉川

同

千載歌上

舟の煙は遠くを渡る舟の煙也俊頼朝臣

同夏大尋

わろのまゝの如くありぬのちおれ村のわろむ水 前納言房

玉川

羨濃 不破郡

詞花雜下

若かりし意計の氷かゝる縁とくしむる彩り事と今徒 友未降經

多胡入野

新後古今雜上

葛の糸と吹雪をひきよれてたの久那の鶴もく也 源季廣

玉川

陸奥

新古今冬

くまのそよ風あてみちの野田の玉川も鳴り 能貞時

新勅撰雜四

陸奥よあると云る玉川も海もふもそよ風 侯人不知

後古今冬

忍ぶのれ野田の玉川も海もそよ風あて氷も海も 鳴徳院

後後拾送上

有りぬきと吹雪もくまのれ野田の玉川も海も 勝松夏

武隈

同

後撰雜三

久し時暮りや重んじ多き山の松を二夜逢ふる哉 元善朝生

拾送別

武隈の松はくちやちくちく千代松もあはれ 友未降經

同雜上

ついでにやちくちく武隈の松もあはれ 能宣

後拾送雜四

武隈の松は二本と云ふ人いふことと云ふことと云ふこと 橋本通

詞花雜上

たのしみはくちくち武隈の松もあはれ 橋本通

新古今別

海もそよ風もあはれ武隈の松もあはれ 基俊

同雜上

あはれれ武隈もあはれ武隈の松もあはれ 加賀左衛門

新勅撰族

るるの別と云ふ武隈もあはれ 右二清正

後千載雜下

たのしみはくちくち武隈の松もあはれ 前納言房

新千載別

武隈の松もあはれ武隈の松もあはれ 九条右大臣

新拾送冬

武隈の松もあはれ武隈の松もあはれ 先行

新後古今恋

武隈の松もあはれ武隈の松もあはれ 前納言房

新勅撰恋一

玉葉恋一 玉川 羨前 橋本同名有 小野小町 常盤井 常盤大臣

後撰雜四

玉川 羨前 橋本同名有 小野小町 常盤井 常盤大臣

拾送恋一

玉川 羨前 橋本同名有 小野小町 常盤井 常盤大臣

後拾送恋一

玉川 羨前 橋本同名有 小野小町 常盤井 常盤大臣

後拾送恋一

玉川 羨前 橋本同名有 小野小町 常盤井 常盤大臣

新古今集三

四三十一

千載夏

夏少と云ふ江は新秋昔の

法性寺入道

新古今旅

夏より此岸より移り玉江の

前太政大臣

玉葉夏

みささち寸が江の波は子後

為家

淡後拾遺

夏少の江の波は子後をふら

忠房親王

新千載恋

相争のうらみや定まらぬ

藤原門院

新秋恋

月影を宿りしはくわの

藤原門院

多松浦 磯入江

越中 射水郡 駿河同名有

拾遺夏

多松浦の名は白ふあちと

柿本丸

新古今雜上

夏の波は同来と云ふれ

慈山

玉葉雜

沖つ風吹あす後松は

藤原宗泰

淡後拾遺下

たふの浦や江の波の

前田良左

同雜春

子菰取たふの浦人い

前在能督

新秋恋

山の波はたれ波浪も

教定

石見山

石見

拾遺夏

石見の山は石見の山

淡人不知

石見

石見

後古今旅

石見の山は石見の山

淡人不知

新後拾遺上

石見の山は石見の山

淡人不知

石見の山は石見の山

淡人不知

古今秋上

石見の山は石見の山

淡人不知

同雜上

石見の山は石見の山

淡人不知

同

石見の山は石見の山

淡人不知

後撰夏

石見の山は石見の山

淡人不知

同秋下

石見の山は石見の山

淡人不知

同恋二

石見の山は石見の山

淡人不知

同四

石見の山は石見の山

淡人不知

同恋六

石見の山は石見の山

淡人不知

同

石見の山は石見の山

淡人不知

拾遺秋

石見の山は石見の山

淡人不知

新千載春上

高砂の松の末の言をたぬ人のよなる言とやむ

近江守臣道

同春下

高砂の松の縁をつれりてかへる花のまをさるひつ

前大納言鳥

新拾遺春上

高砂の松の末の言をたぬ人のよなる言とやむ

鳥氏

同秋下

高砂の松の末の言をたぬ人のよなる言とやむ

前大納言

同

高砂の松の末の言をたぬ人のよなる言とやむ

金三品親王

同雑中

高砂の松の末の言をたぬ人のよなる言とやむ

前僧兵衛

新拾遺春上

高砂の松の末の言をたぬ人のよなる言とやむ

前中納言

同賀

高砂の松の末の言をたぬ人のよなる言とやむ

後系院

新後系院春

高砂の松の末の言をたぬ人のよなる言とやむ

本内院

同春下

高砂の松の末の言をたぬ人のよなる言とやむ

前内院

同秋上

高砂の松の末の言をたぬ人のよなる言とやむ

中納言

同秋下

高砂の松の末の言をたぬ人のよなる言とやむ

定家

同

高砂の松の末の言をたぬ人のよなる言とやむ

前納言

同雜上

高砂の松の末の言をたぬ人のよなる言とやむ

直明王

同中

高砂の松の末の言をたぬ人のよなる言とやむ

深守

後集雜

高砂の松の末の言をたぬ人のよなる言とやむ

深守

同

高砂の松の末の言をたぬ人のよなる言とやむ

深守

同 藤原隆信

同賀 前内大臣基

玉葉賀 後醍醐院

同雅一 崇徳院

同雅五 為家

後千載神祇 為家

同雅中 惟宗忠景

後後拾遺神祇 鎌倉君大臣

風雅雜中 後人不和

新千載神祇 源親長朝臣

新拾遺神祇 津守國道

新後拾遺神祇 信實朝臣

新後拾遺神祇 信實朝臣

同神祇 信實朝臣

このあたりに津波の湯争やある

まの野 山峯

紀伊 伊都郡 金剛峯寺

高野山よりして竹ありありとありて院あり静蓮

は所々竹ありありとありて院あり静蓮

とゆりてはよりしり

後とみまの力をくくるといふをいふは若入のくみ式権聖聖殿

又これ後入道に款主なる野小ありて心りもるふ

とくくるといふあり

ゆりあまのたのころうとゆりてはよりしり

學と成三世の佛の相りよとありて院あり静蓮

曉とありての山小ありて院あり静蓮

同 野山奥より人のいふありて院あり静蓮

後後撰集 正三位知家

同 源具親

後千載神祇 高野明神

同表傷

美福門院のまはして後高野山小納言をくらひ
とらん并てあまのこを世りまはる高野の山をまふの御事ハ俊成
高野門院のまはして高野山小納言をくらひあまのこをくらひ
又くらひて神よもあまのこをくらひてくらひ

同

波のこがるとあまのこを雲深れ神の上中とくらひ本をくらひ
つらつらつら高野のあまのこをくらひ本をくらひ
あまのこをくらひ高野のあまのこをくらひ高野のあまのこをくらひ
高野山院をまはして高野山院をまはして高野山院をまはして
高野山院をまはして高野山院をまはして高野山院をまはして

同

新後撰雜下
高野山院をまはして高野山院をまはして高野山院をまはして
高野山院をまはして高野山院をまはして高野山院をまはして
高野山院をまはして高野山院をまはして高野山院をまはして

同

高野山院をまはして高野山院をまはして高野山院をまはして
高野山院をまはして高野山院をまはして高野山院をまはして
高野山院をまはして高野山院をまはして高野山院をまはして

新千載雅 玉波たぐりたるふりこれ川よみ流るり 前権正雅

新拾遺春上 玉波のたぐりたるふりこれ川よみ流るり 正三位家

新抄 今春 左の春も川よみの波のたぐりたるふりこれ川よみ流るり 順徳院

同旅 松浦山よみたるこれ玉波の里にけりさふり川煙云 彈正平親房

後撰雜 多波礼鴻 肥後 朝徳朝臣

同別 玉波たぐりたるふりこれ川よみ流るり 伊人不知

新後拾遺神 橋小戸 日向 津守国量

後拾遺集 玉波里 未勅 和泉式部

玉葉族 玉波山 峯 同 大江頼重

凡雅流 玉波山 峯 同 前大納言

新拾遺神 玉波山 峯 同 少将内侍

袖振山 大和 少将内侍

拾遺雜恋 玉波たぐりたるふりこれ川よみ流るり 人磨

千載春上 玉波たぐりたるふりこれ川よみ流るり 前中納言

後撰撰春上 玉波たぐりたるふりこれ川よみ流るり 系議馬氏

同秋上 玉波たぐりたるふりこれ川よみ流るり 後鳥羽院

同 玉波たぐりたるふりこれ川よみ流るり 家隆

後拾遺春上 玉波たぐりたるふりこれ川よみ流るり 左京清順

新後撰賀 玉波たぐりたるふりこれ川よみ流るり 定家

後千載秋上 玉波たぐりたるふりこれ川よみ流るり 津守国文

新改古今 玉波たぐりたるふりこれ川よみ流るり 後末極

後拾遺雜 玉波たぐりたるふりこれ川よみ流るり 相模

同雜五 玉波たぐりたるふりこれ川よみ流るり 平正家

金葉秋 玉波たぐりたるふりこれ川よみ流るり 師賢

玉波たぐりたるふりこれ川よみ流るり 師賢

同 ちくちくお神楽のよる波の上のまはるるのちかき神楽 中臣は臣

新千載恋一 昔有る元漢乃神の凄もはらるるをこのちかき神楽 津守国乃

新拾遺恋二 つふもこの唐舟のちかき神楽の凄も 為定

新後古今恋 二心係る神楽乃波まはるるのちかき神楽の凄も 前奥御良忠

綴嘉 原里 山城 綴嘉郡

後古今雜上 虫ののびくまのふれねるまはるるのちかき神楽の凄も 侍住行家

新後拾遺春 やうそ又いふこの田まはるるのちかき神楽の凄も 為世

月輪

同

月輪のちかき神楽のよる波の上のまはるるのちかき神楽の凄も 侍住行家

庭のちかき神楽のよる波の上のまはるるのちかき神楽の凄も 侍住行家

後拾遺春 虫ののびくまのふれねるまはるるのちかき神楽の凄も 侍住行家

同雜四

あさる月輪のちかき神楽のよる波の上のまはるるのちかき神楽の凄も 侍住行家

小野のちかき神楽のよる波の上のまはるるのちかき神楽の凄も 侍住行家

侍住行家

新古今春下 なるるのちかき神楽のよる波の上のまはるるのちかき神楽の凄も 侍住行家

月林

同

月林のちかき神楽のよる波の上のまはるるのちかき神楽の凄も 侍住行家

侍住行家

拾遺雜上

若むあはれむのちかき神楽のよる波の上のまはるるのちかき神楽の凄も 侍住行家

津守 沖津浦宮神

物津下

千載旅

ちかき神楽のよる波の上のまはるるのちかき神楽の凄も 侍住行家

同神祇

津守のちかき神楽のよる波の上のまはるるのちかき神楽の凄も 侍住行家

新勅撰恋三

れあはれむのちかき神楽のよる波の上のまはるるのちかき神楽の凄も 侍住行家

後後撰

我ををねのちかき神楽のよる波の上のまはるるのちかき神楽の凄も 侍住行家

同恋

あはれむのちかき神楽のよる波の上のまはるるのちかき神楽の凄も 侍住行家

後古今秋下

あはれむのちかき神楽のよる波の上のまはるるのちかき神楽の凄も 侍住行家

同神祇

あはれむのちかき神楽のよる波の上のまはるるのちかき神楽の凄も 侍住行家

同雜下

あはれむのちかき神楽のよる波の上のまはるるのちかき神楽の凄も 侍住行家

同賀

あはれむのちかき神楽のよる波の上のまはるるのちかき神楽の凄も 侍住行家

辰後遷恋五

らまのりつ守の誓乃松くま恨びつとふも

後醍醐院

新千載雜下

年々のとまひの鳥の仲はえうのてと世と八徳もとふ

兼談雅經

同雜下

り年へ平のりりの浦内は海へおむのそそふ

法中範

新後古今秋

ね親のちとけりりの浦をまゐる松屋とみはの松

左大臣

同神祇

つとまとは守の浦へ松くま神代ひくま同の鳥か

吉田の鶴

月後 神森

伊勢

千載神祇

月後の神志照とてあつて松くま浮世へ松くま

西園寺入石

新古今神祇

さやうらつ松屋のねを射ら松くま松屋神祇

前太政大臣

辰後撰神祇

つらつとくもつらつとく松くま松くま松くま

後醍醐院

月推神祇

とまてとてとまてとて松くま松くま松くま

後醍醐院

鶴那

甲斐

後撰雜別

とまてとて松くま松くま松くま松くま

伊勢

新千載雜下

とまてとて松くま松くま松くま松くま

忠今

鶴岩

相模

新拾遺賀

鶴岩松くま松くま松くま松くま

在集後基

同大友取

鶴岩松くま松くま松くま松くま

在集後基

同

鶴岩松くま松くま松くま松くま

在集後基

後撰恋二

今てふ松くま松くま松くま松くま

後人不知

同

鶴岩松くま松くま松くま松くま

陽成院

同恋三

鶴岩松くま松くま松くま松くま

陽成院

同雜

鶴岩松くま松くま松くま松くま

後人不知

拾遺恋二

鶴岩松くま松くま松くま松くま

同

詞花賀

鶴岩松くま松くま松くま松くま

能自法師

同雜下

鶴岩松くま松くま松くま松くま

能自法師

新古今恋二

鶴岩松くま松くま松くま松くま

源重之

新勅撰恋二

鶴岩松くま松くま松くま松くま

能自法師

同雜四

鶴岩松くま松くま松くま松くま

能自法師

辰古今整

鶴岩松くま松くま松くま松くま

能自法師

同恋一

鶴岩松くま松くま松くま松くま

能自法師

後拾遺春下

ひくもこのかたは梅やまの山はて別と云はれり

侍従雅有

同恋一

年をへてのち海にれく梅波の成を結まじ終を志す

正三位知家

後千載恋一

さふゆふの山をてくも山を志すかふり新流うか

廣道左大臣

同雜上

花いさかりの山をてくも山を志すかふり新流うか

法眼兼善

後後拾遺春

みろもふまうさある梅波根のこの梅波根の山を

前奥通世

凡雅秋下

海をうらめしき山を志すかふり新流うか

中院通大臣

同恋一

紫ろもさかろ思ひや梅波根の山を志すかふり新流うか

権美通言

新拾遺雜中

後御とあふし梅波根の山を志すかふり新流うか

友原朝村

同

梅波根の山を志すかふり新流うか

僧正桓覚

新後拾遺恋一

梅波根の山を志すかふり新流うか

後三位家隆

新後京冬

引くも山を志すかふり新流うか

前納言親隆

同雜上

引くも山を志すかふり新流うか

前僧正良瑜

梅麻神

常陸 近江同名有

拾遺恋五

梅波根の山を志すかふり新流うか

後不知

梅麻 江神沼野

近江

梅波根の山を志すかふり新流うか

後不知

同恋一

梅波根の山を志すかふり新流うか

後不知

同雜一

梅波根の山を志すかふり新流うか

後不知

新拾遺恋

梅波根の山を志すかふり新流うか

後不知

新後拾遺恋

梅波根の山を志すかふり新流うか

後不知

梅波

同

新拾遺賀

梅波根の山を志すかふり新流うか

後不知

梅麻神

信濃 葛ノ郡

梅波根の山を志すかふり新流うか

後拾遺戀

梅波根の山を志すかふり新流うか

源重之

壺碑

陸奥

梅波根の山を志すかふり新流うか

後不知

敦賀

越前

梅波根の山を志すかふり新流うか

後不知

敦賀

丹波

梅波根の山を志すかふり新流うか

後不知

金葉賀

梅波根の山を志すかふり新流うか

後不知

新千載賀
同雜
同雜
同雜

新千載賀
依保のそあふのこまをさく帯の妹あふふんあふ一也
津宮の時海邊をけりけはほそあふれまふふあふまはま
津宮の時海邊をけりけはほそあふれまふふあふまはま
津宮の時海邊をけりけはほそあふれまふふあふまはま

後田元隆前
関白左大臣
聖武天皇
佳境院
友木平俊

後撰春申
拾遺雜夏
同恋三
新勅撰冬
同冬
後千載夏
新後京極

後撰春申
次用とあじのあつ梅花も来らうみちりしと思ひ
たつあはりのあつ梅花も来らうみちりしと思ひ
たつあはりのあつ梅花も来らうみちりしと思ひ
たつあはりのあつ梅花も来らうみちりしと思ひ

後入不知
大伴藤原
赤人
田原大生
權中納言旅
法皇法皇

新勅撰冬
同冬
後千載夏
新後京極

新勅撰冬
右那あふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ
文りいあふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ
文りいあふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ
文りいあふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ

陽原王
中原行家
後入不知
後入不知

新勅撰冬
同雜上
同雜上
同冬
後千載夏
新後京極

新勅撰冬
山名あふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ
山名あふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ
山名あふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ
山名あふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ

權中納言
惟宗忠宗
関白公直
右大臣重
後入不知

同雜上
同冬
後千載夏
新後京極

同雜上
日ぬあふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ
日ぬあふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ
日ぬあふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ
日ぬあふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ

後入不知
藤原公直
前納言
前納言
公直

同雜上
同冬
後千載夏
新後京極

同雜上
山名あふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ
山名あふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ
山名あふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ
山名あふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ

後入不知
藤原公直
前納言
前納言
公直

同雜上
同冬
後千載夏
新後京極

同雜上
山名あふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ
山名あふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ
山名あふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ
山名あふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ

後入不知
藤原公直
前納言
前納言
公直

七瀬渡

高市郡 肥前國名有

後入不知

同雜上
同冬
後千載夏
新後京極

同雜上
山名あふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ
山名あふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ
山名あふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ
山名あふあふのあつ川はあつ梅花も来らうみちりしと思ひ

後入不知
藤原公直
前納言
前納言
公直

百々春上 也の字ふ後て梅のなるも公春入心そのとけつはは業平

奥之古依乃何とてよるとある通一しるはの
院乃梅系とてめて後ゆりけり

後後撰舞上 ちひして世秋もちの梅花多のうめてお秋白ひまろ 後人不知

後と今秋下 けり府あつ入をあてけり海乃流のた乃に家三あり 表裏則四六

後後拾遺中 花の冬入あまきこゆれしゆも流乃宿ふりこりて天 後成

新拾遺離中 ちりし者ふるにの巻れた用とまよも流のうらととす 信明朝日

新後拾遺春 支野あるは乃梅ゆくまう梅ととひし流乃味ん 伝不定四

新後古今歌 けりひる人の流乃岩の石乃宿し梅ととまよも流のうらととす 源信明朝日

雑波 海津津 後江津沖 勢寺灘 里川宮海 後津下 西生郡

古今草堂 津國の新波のけりれとてふる春と秋とて我人ある 妙也 貫之

同三 君う心と秋とととに新波成乃けりあまきととに流乃 後人不知

同四 け國の新波思えと山渡りてまよあひみんとの流乃 同

同雜一 ちりしち新波の水は流乃ゆりて我をぢふふる 後人不知

同 新波流あつるをまよととるに流乃流とて我を成ぬへらる 貫之

同返し 新波流根とてまよととるに流乃流とて我を成ぬへらる 貫之

同離鉢 新波流るをちりし梅とつるに流乃流とて我を成ぬへらる 貫之

同岸 新波流は笑やけれたまよととるに流乃流とて我を成ぬへらる 貫之

後撰恋二 浦をまよとつるの流乃流とて我を成ぬへらる 貫之

同二 新波流るを梅あまのけりつるに流乃流とて我を成ぬへらる 貫之

同三 け國の新波とてまよととるに流乃流とて我を成ぬへらる 貫之

同四 新波ののけりてまよととるに流乃流とて我を成ぬへらる 貫之

同五 あまきととるに流乃流とて我を成ぬへらる 貫之

同 人この新波とてまよととるに流乃流とて我を成ぬへらる 貫之

同又兼送二 後ゆりけりて同し新波成乃成とてあつんとて我を成ぬへらる 貫之

同六 我ちりし流乃流とてまよととるに流乃流とて我を成ぬへらる 貫之

同 人あまきととるに流乃流とて我を成ぬへらる 貫之

同雜 ちりし流乃流とてまよととるに流乃流とて我を成ぬへらる 貫之

同二 新波流乃のあまのけりてまよととるに流乃流とて我を成ぬへらる 貫之

同三 世中とてまよととるに流乃流とて我を成ぬへらる 貫之

同

新波つてくるるそこの浦をふもむいせは後なる舟 兼平朝臣

かふとひりく一ゆりてゆりてゆりてゆりて

新波つてくるるそこの浦をふもむいせは後なる舟 兼平朝臣

同物名

新波つてくるるそこの浦をふもむいせは後なる舟 兼平朝臣

同

新波つてくるるそこの浦をふもむいせは後なる舟 兼平朝臣

千載事下

四十七

新波つてくるるそこの浦をふもむいせは後なる舟 兼平朝臣

新波つてくるるそこの浦をふもむいせは後なる舟 兼平朝臣

新波つてくるるそこの浦をふもむいせは後なる舟 兼平朝臣

新波つてくるるそこの浦をふもむいせは後なる舟 兼平朝臣

新波つてくるるそこの浦をふもむいせは後なる舟 兼平朝臣

同

同

同

同

同

同

新古今

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

勅勅撰

同

同

同

同

同

同

同

後撰撰

同

同

那波海入江をあらわす鴨のすゝめ海は浮羅守。しも 在東全類

家本別あつたのれとくまをそそ那波の浦をまきしん山 能月江叶

那波江のふり埋もあつた物わらへてふんをまき名 源後類朝

那波めのくくと焼火の下とれよつた物に秋もせきり 方系清神

那波江のまゝ別海の一ふん方秋直ても色つくる名 皇門院別

ふふ波海陸わらぬふふ波せし色まうふゆつり舟 山全江中

ゆふ月秋の満くじし那波江のあれあふふふふふ 在系秀能

ふふふ波くすふふ波もあつたふふふふふふふふ 源具親

鳥道ふふ波のねたふふふふふふふふふふふふ 丘秋門院

夏若のふふふふふふふふふふふふふふふふ 能月江叶

津國のふふふふふふふふふふふふふふふふ 西斤

冬は、成水きくじし那波江のまゝまゝのふふふ 大納言成遠

長人今月の命とまきまきまきまきまきまきまき 能月江叶

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 俊成

那波海陸のふふふふふふふふふふふふふふ 俊成

那波江のまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 貫之

那波江のまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 權中類朝

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 俊成

まふふふふふふふふふふふふふふふふふ 權中類朝

那波江のまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 雅任

同次を那波の浦のまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 源頭國

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 入道前奏

那波江のまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 俊成

那波江のまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 雅任

那波江のまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 俊成

那波江のまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 本室權帥

那波江のまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 三三三三三

那波江のまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 前四三三三

那波江のまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ 左近將忠

後千載春上

煙き入西院の入りあふらん人若火焼也のてはるおまふれ 前大納言世

同

源波はるを春の梅も春の梅も春の梅も春の梅も 為家

同夏

夏梅く秋の源波のあはれも春の梅も春の梅も 源邦長長

同

春と秋の源波のあはれも春の梅も春の梅も 前大納言定

同秋

あふらん春の源波のあはれも春の梅も春の梅も 前大納言氏

同冬

あふらん冬の源波のあはれも春の梅も春の梅も 権大納言衛

同

源波はる冬も春も秋も冬も春も秋も冬も 共徳隆親

後千載冬

源波はる冬も春も秋も冬も春も秋も冬も 津守国平

同

源波はる冬も春も秋も冬も春も秋も冬も 後成

同雜

源波はる冬も春も秋も冬も春も秋も冬も 後入不知

同旅

源波はる冬も春も秋も冬も春も秋も冬も 権大納言定

同

源波はる冬も春も秋も冬も春も秋も冬も 前大納言氏

同恋

あふらん春の源波のあはれも春の梅も春の梅も 同

同

源波はる春も秋も冬も春も秋も冬も 権大納言氏

同

源波はる春も秋も冬も春も秋も冬も 権大納言氏

同雜

源波はる春も秋も冬も春も秋も冬も 後二条院

同

源波はる春も秋も冬も春も秋も冬も 念阿法師

同

源波はる春も秋も冬も春も秋も冬も 大江政國

同

源波はる春も秋も冬も春も秋も冬も 為家

同雜

源波はる春も秋も冬も春も秋も冬も 龜山院

後後拾遺

源波はる春も秋も冬も春も秋も冬も 後光明寺

同春

源波はる春も秋も冬も春も秋も冬も 寺前御寮

同夏

源波はる夏も秋も冬も春も秋も冬も 後二条院

同

源波はる夏も秋も冬も春も秋も冬も 権律師

同

源波はる夏も秋も冬も春も秋も冬も 後入不知

同

源波はる夏も秋も冬も春も秋も冬も 前大納言氏

同

源波はる夏も秋も冬も春も秋も冬も 今親三郎

同

源波はる夏も秋も冬も春も秋も冬も 後九条大臣

同

源波はる夏も秋も冬も春も秋も冬も 平真時

同

源波はる夏も秋も冬も春も秋も冬も 二条院讀破

同

源波はる夏も秋も冬も春も秋も冬も 伏見院

新撰載一

は国のさかたてとあり火焼煙の下ふくゆり傷つて 權大御所

同

人さすの地におつらふい成るる下根え下さるゆ、貫之

同

新撰撰らるるちりるさきにたのの後の後らちん 大納言師頼

同

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 平貞宗

同

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 高親主

同

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 法中伴

同

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 右大臣隆

同

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 頼朝

同

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 冷泉前

同

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 右大臣隆

同

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 為友

同

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 西行法師

同

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 共忠内侍

同

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 前大納言

同

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 後醍醐院

同

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 源季貞

同

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 真昭法師

新撰撰

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 聖法親王

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 友成盛徳

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 花園院

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 大層院

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 等持院

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 常盤寺

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 前大納言

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 正位知家

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 正位行能

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 等持院

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 俊成

あふい江やゆふおきく風きて世系さひさきお村立 権法善

新後拾遺雜之

同雜秋

同恋五

新後更々堵

同

同

同

同

同秋下

同冬

同雜上

同

同雜中

新後拾遺雜之 耶波入江の昔の事の中物山今少く有りぬの比 平貞秀

耶波入江の昔の事の中物山今少く有りぬの比 祝部成孝

耶波入江の昔の事の中物山今少く有りぬの比 前納言

耶波入江の昔の事の中物山今少く有りぬの比 前納言

耶波入江の昔の事の中物山今少く有りぬの比 藤原實隆

耶波入江の昔の事の中物山今少く有りぬの比 高親守

耶波入江の昔の事の中物山今少く有りぬの比 式部省

耶波入江の昔の事の中物山今少く有りぬの比 法不度運

耶波入江の昔の事の中物山今少く有りぬの比 進子内親王

耶波入江の昔の事の中物山今少く有りぬの比 宝篋院贈

耶波入江の昔の事の中物山今少く有りぬの比 左大臣

耶波入江の昔の事の中物山今少く有りぬの比 後名親院

耶波入江の昔の事の中物山今少く有りぬの比 氏細言為

耶波入江の昔の事の中物山今少く有りぬの比 贈後任為

耶波入江の昔の事の中物山今少く有りぬの比 後任院内

耶波入江の昔の事の中物山今少く有りぬの比 前石太

耶波入江の昔の事の中物山今少く有りぬの比 基親

世中少ありぬの事の中物山今少く有りぬの比 後人不知

世中少ありぬの事の中物山今少く有りぬの比 伊勢

世中少ありぬの事の中物山今少く有りぬの比 七条右衛門

世中少ありぬの事の中物山今少く有りぬの比 伊勢

世中少ありぬの事の中物山今少く有りぬの比 後人不知

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

新古今雜中

年少れは枯ももされ橋程方あつたれ心ふさく忠琴

同

春の日はあつたははふ舟さめりしれ信とさかしの高 東慶寺中

同

枯もあつたはは信とさかしの高 後徳寺中

同下

津よのちかへくもあつたはは信とさかしの高 花山院

新勅撰雜

あつたはは信とさかしの高 後人不知

後撰撰上

は國乃本柄のちたはるはは信とさかしの高 法性寺入道

同秋中

あつたはは信とさかしの高 前園白太政

同恋四

あつたはは信とさかしの高 忠通公

同雜上

あつたはは信とさかしの高 忠見

同

あつたはは信とさかしの高 前入政大臣

後古今及教

あつたはは信とさかしの高 共懸有教

同應五

あつたはは信とさかしの高 後人不知

同賀

あつたはは信とさかしの高 前大納言

後拾遺雜上

あつたはは信とさかしの高 頼政

玉葉旅

あつたはは信とさかしの高 常盤井公

同雜上

あつたはは信とさかしの高 前入政大臣

同雜下

あつたはは信とさかしの高 小弁

同

あつたはは信とさかしの高 後徳寺中

同雜上

あつたはは信とさかしの高 後深草院

同雜中

あつたはは信とさかしの高 侍内侍

同雜下

あつたはは信とさかしの高 後人不知

新撰送賀

あつたはは信とさかしの高 權僧正

新撰送四

あつたはは信とさかしの高 慶

同應五

あつたはは信とさかしの高 龜山院

新古今春上

あつたはは信とさかしの高 出家

同雜中

あつたはは信とさかしの高 津守國多

同雜下

あつたはは信とさかしの高 法成寺入道

新撰撰秋下

あつたはは信とさかしの高 前後政太政

牛載夕

あつたはは信とさかしの高 大正隆親

新撰撰秋下

あつたはは信とさかしの高 事文院中

新撰撰秋下

あつたはは信とさかしの高 後徳寺右大臣

新撰撰秋下

あつたはは信とさかしの高 長居浦

新撰撰秋下

あつたはは信とさかしの高 同

新撰撰秋下

あつたはは信とさかしの高 法不離貝

新撰撰秋下

あつたはは信とさかしの高 權虎松言

新千載刑 ともみ波立ちつれどもさるふ雲も射乃浦は舟あきつれそ 崇徳院
同賀 天く代さあつ射乃浦のさるれは海原の山と成果あはさ 藤原の御

鳴尾

沖津

同 武庫郡

千載難一 ともみ波立ちつれどもさるふ雲も射乃浦は舟あきつれそ 崇徳院

後後撰恋三 ともみ波立ちつれどもさるふ雲も射乃浦は舟あきつれそ 崇徳院

新千載下 ともみ波立ちつれどもさるふ雲も射乃浦は舟あきつれそ 崇徳院

同難一 ともみ波立ちつれどもさるふ雲も射乃浦は舟あきつれそ 崇徳院

新拾遺秋上 ともみ波立ちつれどもさるふ雲も射乃浦は舟あきつれそ 崇徳院

新後拾遺集 ともみ波立ちつれどもさるふ雲も射乃浦は舟あきつれそ 崇徳院

長洲濱

同 河辺郡 湍河原

拾遺恋二 ともみ波立ちつれどもさるふ雲も射乃浦は舟あきつれそ 崇徳院

同恋五 ともみ波立ちつれどもさるふ雲も射乃浦は舟あきつれそ 崇徳院

長濱津

伊勢

東大寺能知 ともみ波立ちつれどもさるふ雲も射乃浦は舟あきつれそ 崇徳院

候河

同

後撰雜別 ともみ波立ちつれどもさるふ雲も射乃浦は舟あきつれそ 崇徳院

新勅撰恋高 ともみ波立ちつれどもさるふ雲も射乃浦は舟あきつれそ 崇徳院

流江

伊勢

後後撰恋三 ともみ波立ちつれどもさるふ雲も射乃浦は舟あきつれそ 崇徳院

新千載下 ともみ波立ちつれどもさるふ雲も射乃浦は舟あきつれそ 崇徳院

同冬 ともみ波立ちつれどもさるふ雲も射乃浦は舟あきつれそ 崇徳院

鳴海

渡津 野津

尾張

ともみ波立ちつれどもさるふ雲も射乃浦は舟あきつれそ 崇徳院

あるもの波とつれどもさるふ雲も射乃浦は舟あきつれそ 崇徳院

後拾遺恋三 ともみ波立ちつれどもさるふ雲も射乃浦は舟あきつれそ 崇徳院

詞花秋 ともみ波立ちつれどもさるふ雲も射乃浦は舟あきつれそ 崇徳院

あるもの波とつれどもさるふ雲も射乃浦は舟あきつれそ 崇徳院

増基法師

ともみ波立ちつれどもさるふ雲も射乃浦は舟あきつれそ 崇徳院

同五

後千載後

同

新千載恋

新拾遺恋

同

新後恋

金葉恋下

後後撰冬

後更今舞下

同雜中

後後撰恋

新後撰秋下

後千載旅

さそやの越中物と今更ふをあらはし書きたるに 安部門院

あひのちの方ふあこを國のふらるを都すめやせらる 前大僧正

都ゆを都すあやうぬれあさうたふをたふとて 前大僧正

あしゆら相取ふるもさるふふふふふふふふふ 右近衛將方

ささささささささささささささささささささ 贈後在為子

ささささささささささささささささささささ 前大僧正

ささささささささささささささささささささ 前大僧正

ささささささささささささささささささささ 射水郡 櫻川同名有

ささささささささささささささささささささ 抄政大臣

ささささささささささささささささささささ 権中納言

ささささささささささささささささささささ 藤原後

ささささささささささささささささささささ 家持

ささささささささささささささささささささ 権中納言

ささささささささささささささささささささ 房

ささささささささささささささささささささ 後系院

ささささささささささささささささささささ 後系院

ささささささささささささささささささささ 俊成

ささささささささささささささささささささ 法橋院

ささささささささささささささささささささ 伏見院

ささささささささささささささささささささ 丹波

元暦元年大嘗會瑞春奇丹波國也國也送

神代もさささささささささささささささささ 備中

長尾村 同

後三条院は時大嘗會備中國也

長尾村 同

長尾村

0411

十載實 文代のこゝちほしとてしるしむるは國のつゝあはれ哉

名草 漢浦山

紀伊 名草郡

漢浦山

後撰卷二 紀國のつゝあはれ哉とてしるしむるは國のつゝあはれ哉

同進二 漢浦山

新古今卷一 漢浦山

漢千載卷一 漢浦山

漢千載卷一 漢浦山

新古今卷一 漢浦山

漢千載卷一 漢浦山

奈色木社

大隅

古ノ誹諧ヲ移スルノ成リテノ字々人社ト果モ高キ社ト云ハル
金葉恋下 小島山人社ト云リテ其ノ相ノ厚キ也 橋俊宗
詞苑雜下 小島山人社ト云リテ其ノ相ノ厚キ也 橋俊宗
新撰古今 五 建仁寺ノ人ノ社風ト云テ其ノ相ノ厚キ也 橋俊宗
七瀬渡 赤勘

凱字品和歌集終



